

シンポジウム

柔道死と武道必修化

を考える

なぜ教育にスポーツが必要か

平成 20 年に改訂された中学校学習指導要領に基づき、今年の 4 月から武道の授業が中学校の必修になります。ところが今頃になって、学校柔道における生徒の死亡率の高さが、急速に社会問題化してきています。本学名誉教授の山本徳郎先生は、この問題に、はるか以前から警鐘を鳴らしてこられました。また、森川貞夫先生は広く体育・スポーツにおける人権問題に長年にわたって関わってこられました。そこで緊急に、両先生のお話をうかがい、同時に、学校スポーツの本来あるべき姿とは何か、話し合ってみたいと思います。教育は万人の関心事です。専門にこだわらず、討論に参加していただければ幸いです。

問題提起

山本徳郎先生

(奈良女子大学名誉教授・スポーツ史)

森川貞夫先生

(日本体育大学名誉教授・市民スポーツ&文化研究所代表)

討論者

鈴木康史 (奈良女子大学准教授・身体文化学)

小路田泰直 (奈良女子大学教授・日本近代史)

司会

功刀俊雄 (奈良女子大学教授・身体文化史)

日時・場所

平成 24 年 3 月 10 日 (土) 午後 1 時～4 時

奈良女子大学大学院棟 (F 棟) 5 階 大会議室

主催：奈良女子大学文学部教員有志

連絡先：奈良女子大学文学部功刀研究室 ☎0742 - 20 - 3343